

# 1 「ねらいを明確に」ってどういうこと？



「ねらいを明確に」するため、学習課題を黒板に分かりやすく示しています。(初任者の声)

こうした方法によって、子どもは授業の「ねらい」を意識することができます。

では、教師は、子どもに示す「ねらい」をどのようにして決めればよいのでしょうか？

教科書の文章から引用する、指導書に書いていることを示す……、それでは、十分とは言えません。

「ねらいを明確に」するためには、学習指導要領に示された“教科等の目標や内容”と“子どもの実態”を踏まえて、「教材研究」を行うことが大切です。



参考「授業における学習を大きく左右するのは、子どもの取り組む教材である。教材とは、教育内容を子どもの学習のために具体化した素材である。」

(国立教育政策研究所「学習意欲向上のための総合的戦略に関する研究」)

## 教材研究の二つの視点

- 1 目標・内容に基づいて教材の本質を明らかにする。
- 2 子どもの立場から教材の意味を検討する。

### 【目標・内容に基づいた教材研究】

- ① 学習指導要領に示された教科等の目標や内容を把握する。
- ② 単元で育てたい資質や能力の系統的な位置付けを明確にする。
- ③ 単元の目標を具体的に分析し、教師は何を教え、子どもたちが何を分かり、何ができて、何に気付けばよいのかという指導内容を明らかにする。
- ④ 単元で扱う教材には、どのような特色があるのか、単元の目標を達成するためにどのような働きがあるのかを分析する。

### 【子どもの立場から考える教材研究】

- ① 子どもが興味・関心を向ける対象や、活動への思いや願い、これまでの体験や既に身に付けている習慣や技能等を把握する。
- ② 子どもが、今行っている学習が自分にとってどのような意味があるのかを意識できるように、子どもの身近な生活と結び付けて教材を検討する。
- ③ 一人一人の姿をイメージしながら、子どもが教材をどのように解釈するか綿密に予想する。

## 授業を想定した教材の再検討

教材の本質を明らかにし、子どもの姿が予想できたら、教材を提示する順序やタイミング、効果的な指導方法など、実際の授業を想定して、再度、教材を検討します。必要に応じて、教材を補ったり変更したりします。

授業を想定する際には、「活動」と「内容」を区別しておくことが大切です。

こんな経験はありませんか？



研究授業で、子どもたちは意欲的に活動しました。「いい授業ができたなあ。」とっていると、先輩の先生から、「子どもたちが元気いっぱい活動していたね。それはいいことだよ。でも、この時間のねらいって何？」と言われました。

活動は目に見える分、意識しやすく、子どもが楽しそうに活動していると、教師はそれで満足してしまいがちです。しかし、いかなる活動も内容の習得を目指して組み立てるものです。内容を明確に意識しておくことが大切です。

例えば、総合的な学習の時間において、自分たちで米を栽培し、収穫後調理するという授業（単元）を考えてみましょう。

活動や体験はそれ自体が楽しく、子どもは意欲的に取り組みます。しかし、教師が学習活動を通して習得させる内容を意識していなければ、「活動あって学びなし」となります。

では、この学習では、どのような内容の実現が期待できるでしょうか。

- 米作りを通して、水管理、病気、害虫、農薬などについて考え、環境問題が自分たちの生活と密接に関わっていることに気付く。
- 米作りの方法や収穫物の生かし方に見られる文化や先人の知恵のすばらしさに気付く。
- 地域の農業や生産者の現状と日本の食文化の変化について調べることを通して、自分たちの食生活について考える。 など

内容を習得させるために、こういった素材を教材化し、学習活動を組み立てるのか。そこがしっかりとしていなければ、子どもたちにねらいを実現させることはできません。

子どもの学習意欲が高まるような素材はないか、教師自身が日常生活の中で常にアンテナを張り巡らし、教材研究を楽しみましょう。